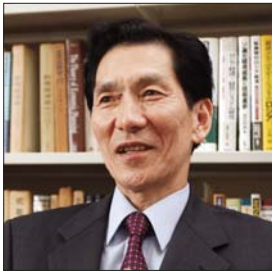


# 第三者意見



関西大学大学院  
会計研究科 教授

宮本 勝浩氏

関西国際空港は、環境にやさしい、またサービスの優れた空港として、世界でトップレベルの評価を受けている。これは関西国際空港会社が、「安心・安全」、「お客様満足」を経営の基本理念に置き、さらにCO<sub>2</sub>削減などの「環境問題」や、地域との交流を図る「地域貢献」などにも積極的に取り組み、「アジアのゲートウェイ」を目指して努力してきたことが認められた結果である。さらに、本CSR報告書でも、イラストなどを用いて、生き生きとした表現でわかりやすくCSRを説明して、一人でも多くの人に関西国際空港の取り組みを理解してもらおうとする姿勢が、高く評価されたからであると言える。

しかし、最近の関西をとりまく社会、経済情勢は厳しさを増しており、関西国際空港の前途は決して洋々とは言えない。アメリカに端を発した「世界不況」、「新型インフルエンザ」の流行、そして「東京一極集中」の進展などの影響は関西経済の停滞をもたらした。このような経済停滞に加えて、関西の三空港問題などにより、関西国際空港の利用者数は減少傾向にある。

今後、関西が活性化し、経済発展するためには、地域の活性化を図るとともに、一層の発展が見込まれる中国や他のアジア諸国との人的、経済的、文化的交流を図っていくべきである。そして、その中心になるのが関西国際空港である。関西国際空港はアジアに強い空港であるので、このメリットを今後一層伸ばして行くべきであり、その方向性はCSRにも明示されている。関西の活性化は、関西国際空港の発展と連動していると言っても過言ではない。

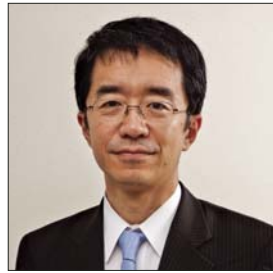
関西国際空港は、現在高い評価を受けているCSRの姿勢を今後も維持していくべきである。そうすることが、関西国際空港の信用を高め、日本における重要性を認識させ、空港の利用を増加させることにつながると確信している。

## 第三者意見をいただいて

CSR報告書として2回目となる本年度の報告書は、空港会社のCSR活動をイラストで表すとともに特集記事を組むなど、私たちの取り組みをできるだけわかりやすくお伝えすることを心がけました。

第三者意見を前年度に引き続きお願いした宮本教授、國部教授からは、特に「安全・安心」と「お客様満足」の追求に対する取り組みに一定の評価をいただいたと考えております。宮本教授からは、関西が経済発展するためには、アジアとの人的、経済的、文化的交流を図っていくべきで、その中心となるのが関西国際空港であるとの期待を込めたご指摘をいただきました。「関西国際空港をアジアのゲートウェイとして発展させる」という私たちの目標の実現に向けて邁進して参ります。さらに、國部教授からは、CSR活動の有効性の確認と社会のニーズの明確化に取り組む必要性についてご指摘いただきました。お客様のニーズを着実にとらえるようステークホルダーとのコミュニケーションについてさらに一段の工夫を凝らして参ります。

貴重なご意見をいただきましたお二方に心から感謝申し上げますとともに、いただいたご意見を真摯に受け止め、今後の私たちのCSR活動に活かしていく所存でございます。



神戸大学大学院  
経営学研究科 教授

國部 克彦氏

今年度の報告書は、「CSR報告書」の名称に衣替えされて2年目になり、新たに3つの特集が生まれ、これらの特集とCSR活動報告の2本立てになりました。特集には、トップメッセージで述べられる新社長の「安全・安心」と「お客様満足」を追求していくというコミットメントを具現化するための活動が紹介されています。地球温暖化防止、安全運行を支える取り組み、顧客サービスの向上の三つの特集はいずれも関西国際空港に関係する「人」が主役です。「人」を前面に登場させ、顔が良く見える紙面は大変良いと思います。このような「人」を中心としたCSR活動は、関西国際空港が重要と判断された取り組みです。今後はより多くの空港内事業者とともに、より高いレベルの活動への挑戦が期待されます。

公害のない環境に配慮した「環境フレンドリー」な空港として誕生した関西国際空港ですが、ことしは会社設立25年目を迎えます。今後も地球環境視点に立った取り組みを進めるというトップコミットメントのとおり、2012年度までの環境管理計画「エコ愛ランド推進計画」を策定され、環境負荷が少ない「エコ愛ランド」として空港島全体で環境負荷低減活動に積極的に取り組まれています。また、この推進計画においても、2008年度には定量目標も設定され、実績も開示されるようになり進化しました。このような環境活動は高く評価されるものです。

昨年度、PDCAを回す仕組みの構築の重要性を指摘しましたが、今年度の報告書では、各項目の活動報告の最初に「2008年度の総括」と「今後の取り組み」が記述され、これに続き具体的な活動内容が開示されています。このように関西国際空港のCSRマネジメントは着実に進化しています。今後は、ステークホルダーとの双方向のコミュニケーションを実現し、CSR活動の有効性の確認と社会のニーズの明確化に取り組まれることを期待します。



関西国際空港株式会社  
代表取締役副社長

竹内 剛志